

国立大学法人大阪大学総長選考・監察会議委員の選出方法及び選出理由について

■教育研究評議会選出委員

1. 選出した総長選考・監察会議委員（氏名五十音順）

熊ノ郷 淳 大学院医学系研究科長
敦賀 貴之 社会経済研究所長

2. 選出方法

- (1) 教育研究評議会において、教育研究評議会規程第2条第1項第4号から第11号までの評議員（総長、理事及び副学長が兼ねる場合は除く。）を、戦略会議の構成をベースとした専門分野別に i. 人文学・社会科学系、ii. 理工情報系、iii. 医歯薬生命系の3つのグループに分け、グループ毎に2名の総長選考・監察会議委員候補者（以下「委員候補者」という。）を選出することとしている。
- (2) 任期満了となった評議員が在籍する i. 人文学・社会科学系及びiii. 医歯薬生命系グループにおいて、別紙1及び2のとおり各1名委員候補者を選出した。
- (3) 教育研究評議会において、各グループにおける選出結果（委員候補者氏名、選出方法、選出理由）を確認し、それぞれから報告のあった委員候補者2名を総長選考・監察会議委員として決定した。

3. 選出理由

別紙1及び2のとおり

【人文学・社会科学系グループ選出結果】

1. 選出された総長選考・監察会議委員候補者

敦賀 貴之 社会経済研究所長

2. 選出方法

委員候補者の選出に先立ち、利益相反に係る自己申告を求めたところ、申告者はなかった。

続いて、委員候補者の選出方法について審議し、次のとおり決定した。

- ① 透明性及び公正性を確保した会議運営や、利益相反の防止や政治的中立性の確保が求められており、こうした要請に応え得る人物を選考すること。
- ② 専門分野に係るバランスに配慮するため、人文学・社会科学系グループを、人文学系グループと社会科学系グループの 2 つの小グループに分け、今回は社会科学系グループの委員の任期満了に伴う委員候補者の選出であることから、同グループから 1 名の委員候補者を選出すること。
- ③ 社会科学系グループにおいて選出方法の検討を行った上で委員候補者を選出し、人文学・社会科学系グループ全体に報告すること。
- ④ 透明性・公正性の担保のため、社会科学系グループから報告された候補者について、人文学・社会科学系グループ全体で審議のうえ、最終的な候補者として選出すること。

引き続き、社会科学系グループのメンバーが別室に移り、選出のための議論を行った結果、敦賀貴之社会経済研究所長が委員候補者として選出された。

その後、人文学・社会科学系グループ全体での審議を再開し、選出結果及び選出理由の報告を行い、審議の結果、全会一致でこれを承認した。

3. 選出理由

上記 2. ①の条件を満たす総長選考・監察会議の委員候補者として、複数年にわたる部局長としての経験や知見の観点を考慮するものとし、上記 2. ②から④の方法により、上記 1. の者を選出した。

4. 選出実施日 令和 5 年 4 月 19 日（水）

【医歯薬生命系グループ選出結果】

1. 選出された総長選考・監察会議委員候補者

熊ノ郷 淳 大学院医学系研究科長

2. 選出方法

委員候補者の選出に先立ち、利益相反に係る自己申告を求めたところ、申告者はなかった。

続いて、委員候補者の選出方法について審議し、次のとおり決定した。

- ① 委員候補者の選出においては、公正性、透明性を最重要視して選考を行うことを確認した。
- ② 委員候補者に相応しい人物として、専門分野や部局の規模、研究科・研究所・附属病院といった異なる設置形態による部局の特性の違い等を広く俯瞰的に見渡し、公平な立場で大阪大学の発展に貢献できる者を選出すること。
- ③ 委員候補者は次の方法により選出すること。
 - ・単記無記名投票により行う。
 - ・投票の結果、過半数を得た者を委員候補者として決定する。
 - ・過半数を得た者が無い場合は、得票数上位 2 名について再投票を行い、過半数を得た者を委員候補者として決定する。再投票の結果、得票数同数の場合は、②の条件をより満たす者を審議のうえ決定する。

その後、投票を行い、過半数を得た者として熊ノ郷医学系研究科長が選出された。

3. 選出理由

上記 2. ②の条件を満たす総長選考・監察会議の委員候補者として、上記 2. ③の方法により、上記 1. の者を選出した。

4. 選出実施日 令和 5 年 4 月 19 日 (水)

国立大学法人大阪大学総長選考・監察会議委員の選出方法及び選出理由について

■教育研究評議会選出委員

1. 選出した総長選考・監察会議委員（氏名五十音順）

大政 健史	大学院工学研究科長
栗原 麻子	文学部長
中野 貴志	核物理研究センター長
深川 竜郎	大学院生命機能研究科長

2. 選出方法

- (1) 教育研究評議会において、教育研究評議会規程第2条第1項第4号から第11号までの評議員（総長、理事及び副学長が兼ねる場合は除く。）を、戦略会議の構成をベースとした専門分野別に i. 人文学・社会科学系、ii. 理工情報系、iii. 医歯薬生命系の3つのグループに分け、グループ毎に2名の総長選考・監察会議委員候補者（以下「委員候補者」という。）を選出することとしている。
- (2) 任期満了となった評議員が在籍する各グループにおいて、別紙1～3のとおり委員候補者を選出した。
- (3) 教育研究評議会において、各グループにおける選出結果（委員候補者氏名、選出方法、選出理由）を確認し、それぞれから報告のあった委員候補者4名を総長選考・監察会議委員として決定した。

3. 選出理由

別紙1～3のとおり

【人文学・社会科学系グループ選出結果】

1. 選出された総長選考・監察会議委員候補者

栗原 麻子 文学部長

2. 選出方法

委員候補者の選出に先立ち、利益相反に係る自己申告を求めたところ、申告者はなかった。

続いて、委員候補者の選出方法について審議し、次のとおり決定した。

- ① 透明性及び公正性を確保した会議運営や、利益相反の防止や政治的中立性の確保が求められており、こうした要請に応え得る人物を選考すること。
- ② 専門分野に係るバランスに配慮するため、人文学・社会科学系グループを、人文学系グループと社会科学系グループの 2 つの小グループに分け、今回は人文学系グループの委員の任期満了に伴う委員候補者の選出であることから、同グループから 1 名の委員候補者を選出すること。
- ③ 人文学系グループにおいて選出方法の検討を行った上で委員候補者を選出し、人文学・社会科学系グループ全体に報告すること。
- ④ 透明性・公正性の担保のため、人文学系グループから報告された候補者について、人文学・社会科学系グループ全体で審議のうえ、最終的な候補者として選出すること。

引き続き、人文学系グループのメンバーが別室に移り、選出のための議論を行った結果、栗原文学部長が委員候補者として選出された。

その後、人文学・社会科学系グループ全体での審議を再開し、選出結果及び選出理由の報告を行い、審議の結果、全会一致でこれを承認した。

3. 選出理由

上記 2. ①の条件を満たす総長選考・監察会議の委員候補者として、経歴及びジェンダーバランスを考慮のうえ、上記 2. ②から④の方法により、上記 1. の者を選出した。

4. 選出実施日 令和 6 年 4 月 17 日（水）

【理工情報系グループ選出結果】

1. 選出された総長選考・監察会議委員候補者（氏名五十音順）

大政 健史 大学院工学研究科長
中野 貴志 核物理研究センター長

2. 選出方法

委員候補者の選出に先立ち、利益相反に係る自己申告を求めたところ、2名から申告があり、それぞれについて現総長との関係性や利益相反の内容、時期を確認の上、慎重に審議した結果、過去において利益相反に関わる事由は存在するものの、現時点において議論に加わることを妨げるほどの直接的な強い影響下にあるとは認められないことから、両名とも本グループの候補者選出の議論を行うメンバーから排斥しないこととし、両名を候補者として選出するかについては、メンバー各人の判断に委ねることとした。

続いて、委員候補者の選出方法について審議し、次のとおり決定した。

- ① 委員候補者に相応しい人物として、高い倫理観と見識を備え、全体の意見を広く伺い、公平な立場で職務を全うできる者を選出すること。
- ② 研究科と研究所・センターの別のバランスに配慮すること。
- ③ 候補者は投票により決するものとし、また各種バランスに配慮することができるよう、まず1名を決定し、その人物を見た上で次の投票を行い、もう1名を決定すること。

その後、1回目の投票を行い、得票最多数の者として大政大学院工学研究科長が選出された。引き続き、2回目の投票を行い、得票最多数の者として中野核物理研究センター長が選出された。

3. 選出理由

総長の選考や監察など重要な職務を担う総長選考・監察会議の委員候補者として、高い倫理観と公平性を備え、個人の良心や高い見識に基づき適切に職務を全うできる者を選ぶことを出席者全員で確認し、上記2.の方法により、上記1.の2名を選出した。

4. 選出実施日 令和6年4月17日（水）

【医歯薬生命系グループ選出結果】

1. 選出された総長選考・監察会議委員候補者

深川 竜郎 大学院生命機能研究科長

2. 選出方法

委員候補者の選出に先立ち、利益相反に係る自己申告を求めたところ、申告者はなかった。

続いて、委員候補者の選出方法について審議し、次のとおり決定した。

- ① 委員候補者の選出においては、公正性、透明性を最重要視して選考を行うことを確認した。
- ② 委員候補者に相応しい人物として、専門分野や部局の規模、研究科・研究所・附属病院といった異なる設置形態による部局の特性の違い等を広く俯瞰的に見渡し、公平な立場で大阪大学の発展に貢献できる者を選出すること。
- ③ 委員候補者は次の方法により選出すること。
 - ・単記無記名投票により行う。
 - ・投票の結果、過半数を得た者を委員候補者として決定する。
 - ・過半数を得た者が無い場合は、得票数上位2名について再投票を行い、過半数を得た者を委員候補者として決定する。再投票の結果、得票数同数の場合は、②の条件をより満たす者を審議のうえ決定する。

その後、投票を行い、過半数を得た者として深川大学院生命機能研究科長が選出された。

3. 選出理由

上記2. ②の条件を満たす総長選考・監察会議の委員候補者として、上記2. ③の方法により、上記1. の者を選出した。

4. 選出実施日 令和6年4月17日（水）